

千葉の山50 4回 2日目 12/20 晴れ

参加者 CL 菅井 鶴田 小倉 八角 加藤 寺崎 吉川 渡辺純

記録 寺崎 菅井

行程時間

長狭学園前のコンビニ 8:40—高山登山口 9:00—9:25 安房高山 9:30—9:40 登山口

序神社 10:30—11:40 度祇巖山 12:10—登山口 13:30

打墨神社 14:00—14:25 西峰 14:30—14:40 鴨川富士(東峰)—15:10 下山口

安房高山 (364.9 メートル)

宿泊組と長狭学園前のコンビニで待ち合わせ、「安房高山」へ

千葉県では高い山にもかかわらず、国土地理院地図には山名がないとか。

清和県民の森キャンプ場の右側を登っていくようなコースがあるらしいが、今日は南側国道410号線の大きなカーブの手前に八角さんの車を置いて、菅井・吉川車で狭い林道を進む。少し拓けた場所にテントを張った団体に会った。「この先がトレランの会場になっている」と言う。「もうすぐ、トップが帰ってくるので、気をつけて!」と聞き、出発



高山山頂



登山(下山)口

林道脇に安房高山と表示された案内板を見つけ、そこに駐車。木の根っこが張り出し、急登をアップダウンしながら登る。所々トラロープが張ってある。あまりメジャーではないのか、小さな道標が錆びている。所々のテープを頼りに進む。木の根っこがネットのように張り巡らされており、雨の後はかなり危なそう。頂上には山名が書かれた木の柱がたっていた。見晴しは、ありよくない。

下山した所には4つの石碑があり、馬頭観音碑も。馬で山越えをした人々の姿が偲ばれる。帰りにもトレランの帰路の人々に会った。トップとの差はかなりある。邪魔をしないよう、ゆっくりと車を走らせ、追い抜いて行った。

とびいわやま (277.7 メートル) 度祇巖山

序(もうけ)神社に到着。車を邪魔にならない道に移動。男性軍は神社名の「まだれ」に、「にすい」のあるなしで盛り上がっていた。神社脇の林道を少し行くと小さな水の流れを見つけ、「滝だ、滝だ!」その先の、沢に架かる小さな木橋を渡り、本格的登山開始。東電設置の階段が現れた。しばらく谷沿いを進む。色が剥げ落ちピンクになったテープがルートを示してくれたが、案内表示、道標等一切なかった。

送電線の鉄塔を越え、明確な踏み跡は山頂直下をまいている。頂上への登り口はわかりにくかったものの、そこは「ちば山」。関係なく行けそうな所を東側から突進する。藪を真っ直ぐ登ると平坦な所に出て三角点を見つけタッチ。頂上は木に囲まれ、見晴らしは全くない。道標すらなく、写真をとって、南に続くかすかな踏み跡を、すぐさま引き返す。元の明確な踏み跡に戻った先にナイスビューポイントがあった。



度祇厳山 山頂



山頂近くビューポイント

展望もよく、鴨川市内が一望でき、太平洋の水平線や波打ち際が見え、ひよっとするとシーワールド？何てものも見られた。周りの山々が見渡せ、真下には農村。ちょっと目を移すと、鴨川の街並み。霞んでいるが、太平洋も見渡せた。景色を堪能しながら食べる昼食に幸せを感じる。

下山は途中から右に続く道を進む。221m 地点の送電線鉄塔まではっきりとした踏み跡が続くが、その先は昔の道らしきものがあるが、最近では歩かれていないようだ。かなり荒れた踏み跡を忠実に下ると登山口の寺神社に出た。なかなかの山だった。

鴨川富士 (208.7 メートル)

長狭富士ともいう。打墨 (うつつみ) 神社近くの広場に駐車。右側の狛犬がお腹に子狛犬を抱えているのを吉川さんが発見。

それらしい登り口はあるのだが、入山口がわからない。鶴田さんが近くにあった人家に入山口を聞きに行き、「葬儀社の所から入る」と丁寧に教わったものの、みんな、近くの登れそうな箇所を藪漕ぎ。丁寧に教えてくださった家の方に申し訳ないので、特に鶴田さんは姿勢を低くして入っていった。かなりの急勾配の杉林の藪斜面をどンドン行くと、稜線に出た。そのすぐ上が西峰山頂だった。



西峰山頂



西峰山頂より

展望もよく、鴨川市内が一望できた。鴨川富士の山頂は稜線伝いに東に 10 分程行った所だ。山頂にはスダジイの大木があり、平地に瓦が散乱していた。浅間神社の跡なのだそう。石の祠があり、新しいお煎餅が一枚とお賽銭が供えられていた。古い石の手水鉢もあった。よいお天気で、汗ばんでくる。山頂にはちゃんと三角点もあり、「鴨川富士」と書かれた標識の横に、同じお煎餅とお賽銭が供えられていた。

途中には根元が何本も分かれた大木があり、堂々としていた。ヤマモモと。古い石の手水鉢が置かれていた。きっと御神木なのだろう。近くの小さな石の祠にはやはりお煎餅とお賽銭が置かれていた登山道としてきちんと整備されており、帰り道は所々に危なくないように太いロープが張ってあった。



鴨川富士山頂



鴨川富士登山(下山)口

降り口では、「いいのかなあ」と思いながらも、道がないので人家の庭を通らせていただいたが、降りた先には登山「登山者の皆様へ」という看板があり、その由来と「民地を通るので、マナーを守るように」と書かれていた。

民家の脇を通り、下りてきた道角には「登山道」と書かれた、壊れた標識があった。
とてもいいハイキングコースだった。